

やまとの名品 天理図書館

鳥の趣色の御まゝに我等
と速也二十五年、蒙と然同し、
我身は未だ、
あふ、れん、つ、の、も、
三、
花鏡の才、
師、
小、
な、
ま、
と、
我、
三、
三、
三、

しょうかどうぎょうじょうき
松花堂行状記

佐川田昌俊著

江戸時代初期写

縦23.5cm 横714.6cm

箱の中に十文字の仕切りがあり、縁の高いかぶせ蓋のある弁当を松花堂弁当といえます。松花堂とは、江戸時代初期に京都の石清水八幡宮瀧本坊の住職であつた松花堂昭乗（一五八四～一六三九）にちなんで付けられたといわれます。書道にご関心のある方なら、この名前を聞いて、近衛信尹・本阿弥光悦とならぶ「寛永の三筆」の一人だと想起されたことでしょう。

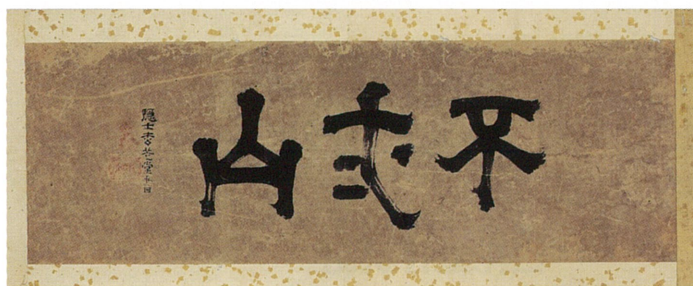
本書は、松花堂昭乗の伝記です。彼と親交のあつた佐川田昌俊（一五七九～一六四三）が、寛永十六（一六三九）年秋、松花堂の没後間もなく、故人となつた松花堂を追慕して書き起したもので、傑出した芸術家の事蹟を知る上で貴重な資料となつています。

著者の昌俊は、武士の出ながら和歌・連歌に長じ、茶をとても好みました。また、交際は広く、交友のあつた人物としては、他に小堀遠州や林羅山、沢庵和尚らの名が挙げられます。晩年は一休寺（京都府京田辺市）がある薪の里に隠棲し、自分の草庵を「不二山黙々寺」と名付けました。

巻物のはじめには、松花堂の署名と印がある「不弑山」の題字が備わっていますが、松花堂が生前に佐川田へ贈つたものでしょう。この一紙によって、二

人の親密度の深さが、より一層強く感じ取られます。

（天理図書館 三村 勤）



天理図書館のお知らせ Tel : 0743 - 63 - 9200 <https://www.tcl.gr.jp/>
◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
○本書は、本年度開催の「天理図書館開館九〇周年記念展」に出品します。
○5月の休館日：3～5日・29日